

堀江新池

(ほりえしんいけ)



ため池の概要

ため池の所在地

愛媛県松山市

ため池の特徴

堀江新池は、松山市最大のため池で、池の中ほどに波止場(中土手)がある珍しい形をしています。これは池があまりに大きいため、大雨の時に生じる波立ちで堤体が壊されるのを防ぐための土手で、非常にまれなものです。

また、池中央の浮御堂は、豊かな水と緑の水辺空間を体感することができる「癒しの空間」となっています。

堀江小学校、PTA、公民館が一体となって学社融合事業を展開し、農業体験などを通じ、農業の大切さと水や土に触れることで、故郷に愛着を持つ心を養う取り組みが行われています。

池を築造したのは、江戸時代後期の庄屋門屋一郎次です。その昔、堀江村では、田畑への水は権現川、郷谷川などの水を利用していましたが、その水だけでは常に不足がちであり、さらに数年に一度は干ばつにあうといった状況でありました。

門屋一郎次は、この状況を憂い根本的に解決するためには、大規模なため池の築造が必要であると考え、村民にその必要性を説き藩にも働きかけました。こうして村民が一丸となって作業に励み、3年の歳月をかけて、1835年に藩内最大の堀江新池が完成しました。

関連情報